

Site Visit

SCOPE 現場訪問

—東北を支える国際拠点港湾—

仙台塩釜港 災害復旧事業

DATA

- 整備内容 : 災害復旧工事
- 事業期間 : 平成23年度～平成24年度
- 支部人員 : 56名

高砂コンテナターミナル復旧工事
左：2011/ 4/18撮影
右：2011/12/12撮影



お話を聞いた人

仙台支部

支部長：木村 孝さん

調査役：亀井 重信さん

テクニカルエキスパート：二宮 正紀さん、三宅 賢治さん

People who create port and airport.

東北唯一の国際拠点港湾として
重要な役割を担う仙台塩釜港

仙台塩釜港は2001年に特定重要港湾（現・国際拠点港湾）の指定を受け、数々の重要な役割を担っています。

仙台港区向洋地区は東北港湾のコンテナ取扱量の約6割を占めるなど東北を支える国際物流拠点となり、仙台港区中野地区では完成自動車の輸送拠点やフェリーによる国内流通の拠点としての役割を果たしています。東北地方で唯一製油所を有している仙台港区栄地区では東北地方全域への供給や海外輸出のほか、臨海部には火力発電所、ガス工場が立地し、背後の電気・ガス需要を支えています。

2011年3月11日の東日本大震災により、この仙台塩釜港も被害を受け、エネルギー供給や物流機能が停滞し、大きな影響を受けました。早急な復興のため、4月2日には第一回目の復興会議を実施。被災した港湾施設は概ね2年を目途にし、本格復旧のための工事が進められています。今年の9月26日には仙台港区の防波堤（国施工分4施設、延長合計2,760m）が復旧。東日本大震災で被災した東北の港湾の中では最も早く完成しました。

People who create port and airport.

一日も早い復旧のため24時間体制で作業

「津波の勢いは釜石など他の地区よりは比較的小さかったです。防波堤も津波の被害を受けていますが、C防波堤の先端部が傾いた以外は、津波によって倒壊したところはそれほど多くなく、地震による沈下というのが

ほとんどでした」（調査役 亀井 重信さん）

各地区の被災状況としては、仙台港区中野地区（高松、中野1～6号、雷神）岸壁が50～100cm沈下。エプロン直下には5～80cmの空洞箇所があるほか、舗装版の損傷やふ頭用地との段差、上部コンクリートや車止めの損傷などが見られました。現在、この地区の復旧作業はほぼ終了しています。



仙台港区向洋地区（高砂1・2号、向洋）においては、高砂2号が設計高より60cm沈下、背後のふ頭用地にも不等沈下が認められました。高砂コンテナターミナルは東北地方の国際海上コンテナの6割以上の取り扱いを占めていたため、早期回復が課題となりました。そのため、国際コンテナ船が利用する高砂2号は24時間3交代制で工事が進められていました。

「一刻も早く、船舶航行や荷役作業が安全に、かつ元

通りに行える港にするために24時間体制で進められていました。新たに何かをつくるわけではなく、被災した岸壁を復旧したり、沈下した防波堤を元の高さに嵩上げするなど、主に港湾施設の原形復旧が主で、SCOPEはその施工状況や出来形の確認補助作業を担っています」(テクニカル・エキスパート 二宮 正紀さん)

People who create port and airport.

復興に携わる者として責任を持った仕事

今回の工事は重要な物流拠点ということもあり、供用しながらの工事となりました。

「供用しながらの工事ということで制約が多いため、現場の作業調整がとても重要です。SCOPEでも工事がスムーズに進められるように検査などの業務を計画的に行

うようにしています。また怪我や事故などにより工事が滞ることが無いよう、施工業者の安全面も特に注意しています。実際に工事を行うのはそれぞれの施工業者ですが、私たちSCOPEも直接復興に携わっているという気持ちで業務に取り組んでいます」(テクニカル・エキスパート 三宅 賢治さん)

復旧工事は“ものづくり”により復興を進める東北の物流を停滞させることは出来ないため、定期的に利用者調整会議を行うなど港湾利用者との工事の調整が行われていました。一般ユーザーの切実な思いや復興のための情熱を汲み入れた使い勝手のいい港になり、1日でも早く元の生活に戻れるよう願わずにはいられません。

● 仙台塩釜港(仙台港区) 主な被災状況

【JX 日鉱日石エネルギー】

栈橋の損壊



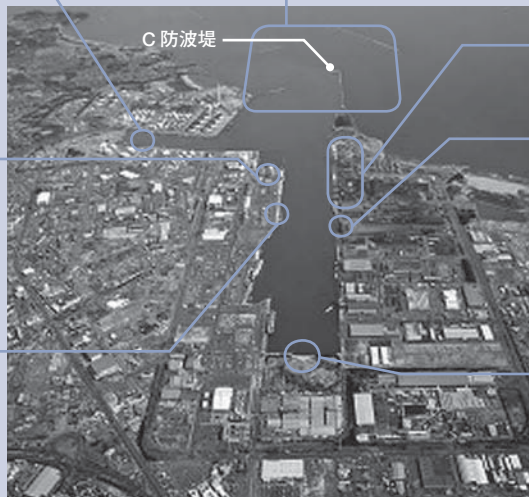
【中野1号岸壁】ベルトコンベアの倒壊



【中野4号岸壁】エプロンの損壊



【防波堤】地殻変動により、防波堤全体的に80～100cm沈下し、高波浪の港内への越波によって、静穏度が低下すると共に、津波により消波ブロックが散乱や沈下したために、防波堤の機能が低下。



【高砂コンテナターミナル】

岸壁はらみだし、エプロン部段差・沈下、クレーンレール蛇行

【東北スチール専用岸壁】

貨物船乗り上げ



【中野地区】緑地護岸崩壊



写真：国土交通省東北地方整備局

People who create port and airport.

Voice

現場からの声



支部長 木村 孝さん

昨年の震災時、仙台港で担当技術者が被災し、一時は全く連絡が取れず絶望的になったことがありました。携帯が繋がりにくい中しばらくして、たった数秒間でしたが元気な声を確認できた時「これで全員生き延びられた」と支部職員一同胸を撫で下ろしました。

当時、2階の駐車場に置いた社用車はタイヤまで浸水していましたが動く状態にあったようで、誰かが数日間乗り回した後事務所前に帰して置いてありました。緊急時なので誰かのお役に立てたならよかったと思います。

私たちの業務はほとんどが水際で行われるため、常に津波の危険にさらされていることを痛感させられ、認識不足であったことを反省しています。超大津波から職員の身を守るには、経験した恐怖感を忘れないよう伝え続けて、いつでも避難できるようにしておかなくてはなりません。

現在の災害復旧工事は、供用しながら施工しているため、請負者がその調整に努力しており、当センターの施工状況確認補助もスムーズに行えるよう協力して、1日も早く復興出来るよう願っています。

調査役 亀井重信さん

仙台支部では震災後、業務の量が大幅に増え、人員も23名から56名に増えました。担当現場も多く、各現場にそれぞれ数名の人員がいるため動きがつかみにくいところがあります。私の場合は、岩手県に4箇所、宮城県に3箇所と計7箇所の現場を担当しており、合わせて20数名の人員がいます。そこで各人に毎週の予定表を出してもらい業務内容やスケジュールを把握するようにして、月に一回はそれぞれの現場に必ず行くようにしています。大震災からの復興の現場に携わることで貴重な経験をさせていただき、とても誇りに思っています。



▲左から亀井さん、二宮さん、三宅さん

People who create port and airport.

Voice

一般利用者の声

仙台塩釜港振興会 中鉢和保さん・櫻井弘さん



▲左：櫻井さん／右：中鉢さん

震災当日、私たちの事務所の窓から10mを超す津波が見え、事務所にもあつという間に7mくらいまで水が上がってきました。170台くらい止められる駐車場の車が一瞬にして無くなった。だんだんとではなく、映画を見ているかのようにパッと消えてしまったんです。その時頭に浮かんだのは「これで死ぬんだな」と。「先がある若い人には生き残ってほしい、助かればいいな」と思っていました。そのうち石油基地が爆発し、油が流れてこのあたりは火の海になりました。津波で生き残った人たちは「火災で死にたくない」と言っていた。そんな凄まじい状況のなかで、よく生き延びたと思います。

震度6以上の地震が起こることを想定して対策会議のようなものも開催されていたけれど、実際にはあまり意味がありませんでした。

震災当日、私たちの事務所の窓から10mを超す津波が見え、事務所にもあつという間に7mくらいまで水が上がってきました。170台くらい止められる駐車場の車が一瞬にして無くなった。だんだんと

ではなく、映画を見ているかのようにパッと消えてしまったんです。その時頭に浮かんだのは「これで死ぬんだな」と。「先がある若い人には生き残ってほしい、助かればいいな」と思っていました。そのうち石油基地が爆発し、油が流れてこのあたりは火の海になりました。津波で生き残った人たちは「火災で死にたくない」と言っていた。そんな凄まじい状況のなかで、よく生き延びたと思います。

震度6以上の地震が起こることを想定して対策会議のようなものも開催されていたけれど、実際にはあまり意味がありませんでした。

震災後、復興計画が出ててもコンテナヤードがいつ元通りになるのかすぐには回答が得られませんでした。次に出た回答は1年半とか2年という長いスパン。私たちは「地方港なのにそんなゆっくり復興していたら間に合わない。この港が死んでしまう」と訴え、工事の方法を提案したり、24時間体制で工事を行うことなどについても提案しました。最初は却下されましたが、こちらも諦めずに交渉した結果、私たちの言葉を聞いてもらい、工期も短縮されました。

今年7月には荷物の戻りが78%だったのが、9月には90%近くまで戻ってきました。ただ、輸出は以前の半分、北米航路も半分の200本です。でも全国各地から応援していただき、キャリアクレーンも日本港運協会さんを通じていただきました。いただいた塗装そのままにして気持ちを忘れないように使用しています。本当にありがたいです。

この災害があつて、お客様には仙台港はやはり重要なんだと再認識していただいた。自分たちだけの力ではなにも進まないのので、国や県の皆様の力をお借りして、仙台港を盛り上げていきたいと思っています。